

薬史学会通信

No.40

J S H P

2005年6月

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 (財)学会誌刊行センター内日本薬史学会事務局
TEL (03)3817-5821 FAX (03)3817-5830 URL <http://yakushi.umin.jp/>

新会長就任のご挨拶

日本薬史学会会長 山川 浩司

本年の1月より柴田承二前会長の後を受けて、50年の歴史を誇る日本薬史学会の会長を勤めることになりました。前会長の柴田先生の時、創立40周年では「日本医薬品産業史」、また昨年は「日本薬史学会五十年史」を発刊しました。私は本会の創立時に参加しましたが以後しばらくは遠ざかっていました。本通信が発刊されて以来、再度参加して上記の企画には微力を尽くしてまいりました。最近では本部事務局の常任理事に若手の参加を得て、新風を吹き込んだ活動を図っております。本会の機関誌の薬史学雑誌と薬史学会通信は会員の方々の強力な支援を中心として一新し、活性化を図ってまいります。



また今世紀から開始しました本会独自の薬史学会年会も順調に発展し、春の総会は東京で、秋の年会は地方での本会の発展を願い、本年は札幌で2005年会を開催、来年は名古屋市で2006年会を開催する計画を進めております。本会の活動が全国的に発展できるように会員の方々にご支援とご協力をお願い申し上げます。

山川浩司会長のプロフィール

1928年東京生まれ、海軍より復員後、1953年明治薬学専門学校卒、1952-54年、東大医学部薬学科、選科、研究生、1954-59年慶応義塾医学部助手、薬化学研究所、1959年薬学博士(東京大学)、1959-64年八幡製鐵(株)基礎研究所(現新日鉄先端技術研究所)、1964-94年、東京理科大学薬学部教授(薬品製造化学担当)、1994年定年、その後東京理科大学嘱託教授、東京理科大学名誉教授、有機合成協会理事、薬学会理事、薬剤師会常務理事、薬学教育協議会常任理事、薬史学会常任理事、平成9年度薬学会教育賞、平成17年度薬学会有効会員。専門分野：有機化学、有機金属錯体化学、薬史学。著書：有機薬品製造化学、有機薬品合成化学(廣川書店)、メデイシナルケミストリー、有機金属錯体化学、機器による医薬品分析(講談社サイエンティフィック)、有機化学、薬学概論、国際薬学史(南江堂)、日本医薬品産業史、全国医薬史蹟ガイド(薬事日報社)。

日本薬史学会 2005(平成 17)年度年会(札幌)

日時：平成 17 年 10 月 1 日 (土)

会場：札幌市教育文化会館 (札幌市中央区北 1 条西 13 丁目、電話：011—271—5821)

主催：日本薬史学会・北海道薬剤師会 (共催)

講演：特別講演 (2 題)、一般研究発表 (15 題)。プログラム参照

参加登録費：1,000 円 (当日：1,200 円)、学生は無料

懇親会：年会終了後。会費 4,000 円 (当日：5,000 円)

会場：ウエルシテイ札幌 (北海道厚生年金会館、札幌市中央区北 1 条西 12 丁目)

年会参加申込：年会参加の申込みは、郵便または FAX で、その旨を年会事務局までお知らせ下さい。

年会の参加登録と共に懇親会、見学会の予約の払込取扱票をお送りします。

お申込みの締切りは 8 月 10 日 (水) です。なお、メールでの申込みはご遠慮下さい。

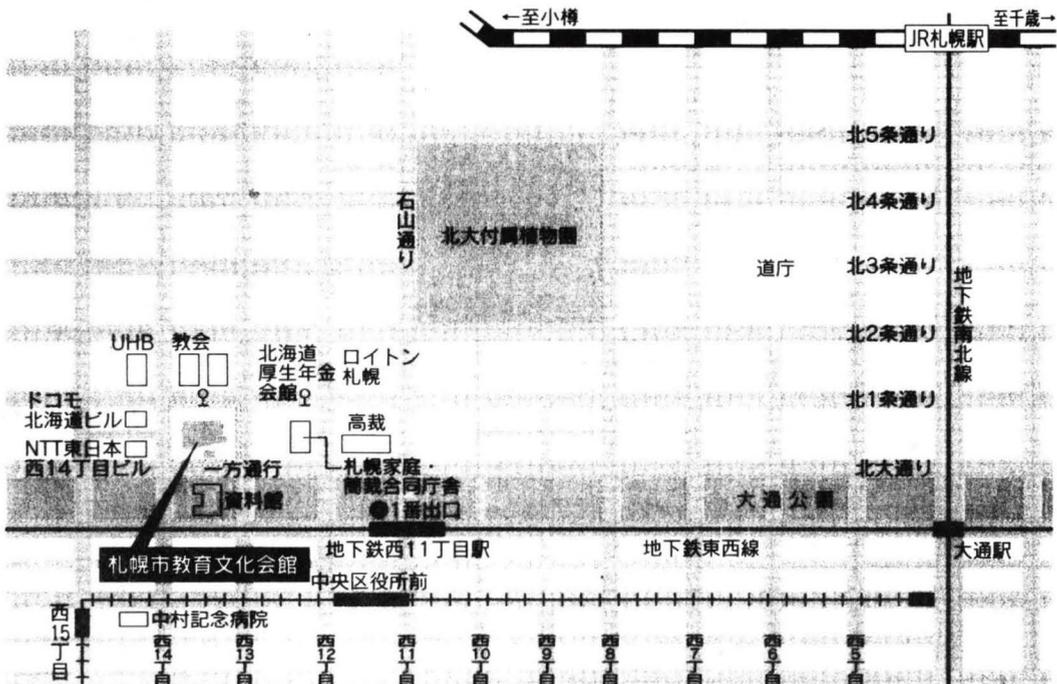
年会会長：日本薬史学会・北海道薬剤師会 斎藤元護

年会事務局：北海道薬剤師会 薬史学会年会係 (高橋保志)

〒062—8631 札幌市豊平区平岸 1 条 8 丁目 5 番 12 号

電話：011—811—0184 / FAX：011—831—2412

●交通のご案内



＜交通機関＞

●地下鉄／東西線西11丁目駅(1番出口)から徒歩5分

●市電／西15丁目から徒歩10分

●JR・中央バス／厚生年金会館前から徒歩1分

日本薬史学会 2005(平成 17)年度年会プログラム

2005 (平成 17) 年 10 月 1 日 (土) 9 時 30 分—18 時 15 分

札幌市教育文化会館 4F 講堂

開会の挨拶 (9:30—9:40)

研究発表 午前の部 (発表時間: 各 20 分、9:40—12:00)

1. 東京農大(網走) 西澤 信: 北海道特産・昆布の歴史
2. 北見工大 山岸 喬: 蝦夷地の薬物・古文書中のアイヌの薬物
3. やま内科胃腸科医院(薬局) ○山 朝江、星薬科大 三澤美和: ドイツ領事ハーバーと星一
4. 星薬科大 三澤美和: 星一記念室の揮毫
5. 東京理科大学大学院(薬) ○今井勇介、遠藤次郎、中村輝子、九大大学院(言語文化研)
ウォルフガング・ミヒエル: 江戸時代に開催された薬品会の時代的な特徴
6. 日本薬史学会 川瀬 清: 「若い薬学者の会」と北海道 戦後日本の薬学運動史〈1〉
7. 名城大(薬) 奥田 潤: 「薬学生のための薬学史年表」作成の試み

昼食・休憩 (12:00—13:00)

臨時総会 (13:00—13:15)

研究発表 午後の部 (発表時間: 各 20 分、13:15—15:55)

8. 東京大大学院(薬) ○五十嵐 中、津谷喜一郎: 医薬品強制実施権のリバイバル
9. 日本薬史学会 末廣雅也: Charles Ernest Overton と麻酔薬のリポイド説
10. 新潟大医歯学総合病院(薬剤部) ○坂井賢太、佐藤 博、東京理科大(薬) 遠藤次郎、
中村輝子: 小児五疳薬の系譜〈1〉 保童円・五疳保童円
11. 東京海道病院(薬剤科) 五位野政彦: 落語の中の医薬品(第5報)
12. 日本薬史学会 山田光男: 仏教医学に見られた薬物の変遷
13. 東京大大学院(薬) 津谷喜一郎: ノルウェーで 1933 年に廃止されたニード・クロズ制度
14. 東京薬科大(薬) ○宮本法子、日本薬史学会 山川浩司: 女子薬学教育の創成期に求められていたこと
15. 日本薬史学会 ○山川浩司、薬学教育協議会 百瀬和享: 戦後 60 年間の薬学教育改革に関して
薬学会、薬剤師会、病院薬剤師会、薬学教育協議会、文部科学省および厚生労働省が果たした
役割の検証

特別講演 (講演時間: 各 60 分、16:05—18:15)

1. 元北海道大学図書館 北方資料室主任 秋月俊幸:
ある植物学者の生涯 — 書簡集よりみた宮部金吾博士 — (16:05—17:05)
2. 前日本薬剤師会会長 佐谷圭一:
嗚呼 丹羽藤吉郎先生 (17:15—18:15)

閉会の挨拶

見学会：10月2日（日）。下記2コースのバスツアーを実施します。参加ご希望の方は年会参加申込みと一緒に年会事務局にお申し出下さい。参加者が10名未満の場合は中止となります。なお、申込み後は、見学会に関する連絡等は、〈株〉ジェイティビー〈JTB〉法人営業札幌支店（営業第3課：中川晶子、電話：011—271—7024）が担当することになります。

札幌コース：JR札幌駅北口に集合（出発：8時45分）— 北大総合博物館 — 大倉山スキージャンプ台 — 百景園（昼食）— 草木庵 — さけ博物館・インディアン水車（千歳）— 新千歳空港（16時30分頃着）、解散 — JR札幌駅北口、解散。 （参加費：11,000円）

小樽コース：JR札幌駅北口に集合（出発：8時45分）— 旧青山別邸 — 鯉御殿 — 青塚食堂（昼食）— 小樽運河周辺の散策 — 岡川薬局 — JR小樽駅（15時30分頃着）、解散。
小樽駅から新千歳空港駅までの所要時間（快速電車）は約70分、運賃（1,740円）は自己負担。（参加費：10,000円）

❖ 薬史学会事務局だより ❖

1. 北海道支部の誕生と活躍

『薬史学会通信 No. 39』4ページに概略報告しましたように、昨年2004年10月16日に開催された臨時総会において、北海道支部（斎藤元護支部長）の結成が承認されました。同年11月16日に柴田承二（前）会長よりの祝辞を受けて設立総会がもたれ、本年2005年1月29日に同支部設立記念総会、翌2月18日に第1回の例会が開かれました。この時は北見工大の山岸 喬会員による「蝦夷地の古文書から健康を学ぶ」と題する講演がありました。

かくして本年2005年度薬史学会年会の開催を担っていただき、その実行準備は着々と進みつつあり、2002（平成14）年の富山市における薬史学会年会同様の成果が期待できるところまでになっています。どうぞこの10月1—2日には、会員・非会員を問わず多数の皆様心地よい秋の北海道にお出掛け下さい。

2. 新年度薬史学会事務局の活動状況について

（1）本年2005年より山川浩司会長・津谷喜一郎副会長の体制となり、4月の総会以降、本会事務局は活発に活動を始めました。まず機関誌・紙の編集主任として三澤美和理事（星薬科大学・薬理学教室）が当たり、若手として会計・会員担当に塩原仁子理事（昭和大学薬学部）、広報担当主任に五位野政彦理事（東京海道病院）も加わって活発に意見交換をしています。

（2）早速、本号の『薬史学会通信』から従来のB5版からA4版にあらため、明年度からさらに工夫を重ね、親しみやすい楽しい読み物に変えていこうと意気込んでいます。本号には、学会のロゴマークの新設に向けて懸賞金つきで会員の皆様に呼びかけるコーナーがございますので、どうぞ皆様腕を奮ってチャレンジしてみてください。

（3）山川会長は昨年、新書版の『全国医薬史蹟ガイド』（薬事日報社）を出版されました。便利で面白い内容です。先生自身、多くの薬史ファンのご協力によって、一層充実したものにしていこうと考えておられます。関心をお持ちの方の史蹟巡りへのご参加を望みます。

日本薬史学会のロゴマーク募集について

日本薬史学会では本会のロゴマークを募集します。

先に発刊した『日本薬史学会五十年史』に寄せられた世界各国の祝辞をみてもわかるように、各国の薬史学会には興味あるロゴマークが記されています。ロゴマークは学会のシンボルであり、アイデンティティーにもなります。本会発行の機関誌の表紙に、年会要旨集に、ポスターに、封筒に、と多面的に使用することができます。どうぞ奮ってご応募下さい。

1. ロゴマークには、「日本薬史学会」の文字、および「Japanese Society for History of Pharmacy」またはその略語である「JSHP」を入れて下さい。
2. 世界の関係者が一見して薬史的な印象を感じるマークを希望します。
3. 最終的に採用された方には金3万円を進呈します。
4. 作品提出締切日： 本年8月末日
5. 提出場所： 郵便にて下記までお願いします。

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

(財)学会誌刊行センター内日本薬史学会事務局

6. 審査発表： 平成17年10月1日開催の2005(平成17)年度薬史学会年会(札幌)にて

〈参考〉代表的な各国薬史学会のロゴマークの例示



国際薬史学会



国際薬史アカデミー



イタリー薬史学会



Founded 1967

英国薬史学会



米国薬史学会



フランス薬史学会

3. 明年 2006 年秋の本会年会は名古屋地区

本年 2005 年 4 月の日本薬史学会総会で、奥田 潤理事は明年度の本会年会につき、年会長として名古屋での開催を受託されました。ご苦勞ですが、先生のお力によってご準備を進めていただき、立派な年会となりますよう願っております。

4. 本会発展に関する話題について

日本の科学に限らず一般の文化現象の中に、永い自らの経験の蓄積から法則なり原理を見つけ出そうとするのではなく、外部（外国）でまとめられた成果をすばやく移入してわが物にしようという面がありはしないかと、思うときがあります。その方が苦勞も無く、経費も時間も少なくすむからです。しかし己の歩んだ道を総括して、そこから教訓を導き次の行動選択の基礎にすることはとても大切なことだと思います。

薬学の世界でも、20 世紀薬学の基本であった有機化学の世界のみに目が向いて、臨床実践と生命科学との結合は希薄でした。薬学教育も 6 年制スタートに当たって、初心に帰って、保健・衛生・疾病治療の現場に学び、加えて歴史に学ぶ必要があると思います。そうした中で薬学・薬剤師・薬業の世界に歴史的な光を当て、法則化をはかる、これも現在の本学会に与えられた使命でありましょう。

本会でこうしたことを考慮し、今後の薬史学会活動を一層活性化しつつ、薬学の分野に貢献していかなければならないと思います。事務局担当者の間ではいくつかの活動を模索中です。たとえば、古色蒼然たることが薬史学であるという概念を打ち破り、国内外の薬史学関係の情報紹介、薬をめぐる経済・行政・教育・現場活動などの変遷についての総括と展望といった“近薬史学”も視野に入れて機関誌などで採り上げていくことであります。また薬史学の分野で優秀な業績をあげたり発展の芽のある研究をされた方の表彰や、会の活性化に向けた財政問題の検討などが話題になっています。

以上、『薬史学会通信』改版を機に私見を述べさせていただきました。

(川瀬 清)



日本薬史学会旗